

# め っ ち ゃ

## 酒 井 恒

「めっちゃ」という言葉は辞書にも出ていないし、百科事典にも載っていません。それは漁村での方言で、底曳き船が沖に出漁して有用な魚族やエビ・カニなどを漁獲した後の網の残物のことで、海底の泥や砂と一しょにいろいろな海底動物や塵埃が混じっています。

以前にはどこの漁場でもめっちゃも他の漁獲物と一しょに箱につめて持ち帰り、海岸にひろげて乾燥し、田圃や畑の肥料に利用したものです。しかし近頃は化学肥料が普及したので、めっちゃは沖ですてられてしまい、港に持ち帰ることはほとんどなくなりました。

海岸にひろげられためっちゃは海底動物の研究資料を得るのにはこの上ないよい場所です。私も今までに頗る多数の貴重な標本を各地のめっちゃから採集しています。立派な設備をほこる海洋調査船によって得られた結果に劣らない効果が期待できるめっちゃが、今日沖ですて去られてしまうようになったことは海底動物の研究をすすめる上で残念でたまらないように思われます。

嘗て銚子の海岸に乾された犬吠岬沖のめっちゃから拾い出された「ベニスワイガニ」の標本から、日本海の特産と思われていたズワイガニが太平洋岸にも分布していることがわか

りました。紀州南部のめっちゃの中から拾われた世界での超珍種のカニ、「コウガイメナガガザミ」はその時得られた雌と雄の標本以外にはどこからも未だにとれていません。海の動物の探求者にとってはめっちゃはまるで宝物探しの場所のようなものです。

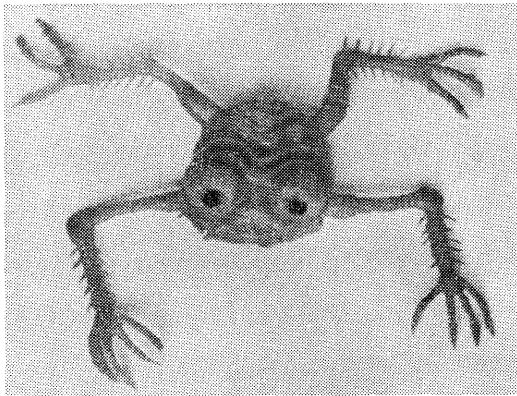
ところが今日でもなお、めっちゃを沖ですてないで大切に持ち帰る所が一ヶ所だけあります。そこは愛知県いひづまの三河一色の漁港です。ここでは毎日何十隻という底曳き船が出漁しますが、えものを満載した船は夜明けと共に続々と帰港して、港は一日で最も活気のある朝を迎えます。そして有用な魚やエビ・カニは市場での「せり」にかけられます。めっちゃは船着き場に続くコンクリートのたたきの上に盛り上げられます。そして船主の家族は総出でめっちゃの中から小形のピンク色のモエビをよりわけます。竹の箸はしを使って見事な手さばきでモエビはかご一ぱいに拾い出されると、鮮度のおちないうちに「せんべい工場」へと送りこまれます。そしてそのエビを材料にして三河一色自慢のえびせんべいがつくられるのです。そのために三河一色ではめっちゃは沖にすてないで大切に持ち帰られるのです。そして「モエビ」の選べつが終ると今度は私たちが貴重な研究資料を採集させてもらう番

になるのです。

めっちゃの中から深い海底の変った動物をえらび出す作業はとても楽しいもので、私は今までに三河一色のめっちゃだけから数十種のカエ・エビの珍種を拾い出しています。また、学術標本以外にも、めっちゃ特有のいろいろな興味深いものが拾い出されます。最も多いのは釣り道具で釣り船から失われたもの、そのほかに遊覧船からの落し物のアクセサリーや玩具など、

時には奇想天外な品物まで現われることもあります。

挿絵にかかげた写真もその一つで相模湾の葉山沖のめっちゃから拾われたものです。柔軟なビニール製品で多分釣りの擬餌



だろうと思いますが玩具にもなるでしょう。何とも面白い作品で、このような珍動物は自然界には実在していません。からだつきから見るとかえるのようで特に二つの目玉と白い歯の生えた大きい口がそう見えますが、背中は丸くて「へいけがに」そっくりです。足は四本で前足には四本の指があり後足には三本の指、指の形はひよこの指そっくりで、それぞれに長い爪が生えています。足の脛すねはむかでそっくりという珍無類の特徴をそなえています。

二人の幼稚園児と二人の小学校低学年に進んでいる私の孫とその友だち、一人一人にこの怪物を見せて感想をききました所がいろいろな答が返ってきました。

「宇宙人のペット」「りゅうくう城のごきぶり」「どらえもんのカメレオン」など。いずれもそれらの答は一部の特徴を捕えてはいますが、やはり漫画や玩具の影響をうけているようです。

私はずっと以前にある鯛釣りの名人から、こんな話を伺いました。「鯛という魚はとても好奇心と競争心が強いのでこの習性を利用して餌なしでも鯛を釣ることが出来る。釣針に海藻の数片をつけただけで海底に急に上げ下げしていると美

事な鯛がくいついてくる」という話です。このビニールの製品は振るといかにも生きているようにゆれ動くので擬餌としての効果があるように思われます。そしてこの怪物ならば多分人間同様に魚にも好奇心を抱かせるのにじゅうぶんではないかと思われれます。

最近私の友人が、葉山の沖のめっちゃから拾ったという戦艦大和のプラモデルを背負った「サメハダヘイケガニ」の標本を見せてもらいました。ヘイケガニの種類はすべて後方の二対の脚が縮小していて、この小さい脚で、貝殻でも木片でもウニの殻でも身のまわりにある物は何でも背負って甲らをかかす習性があるのです。このサメハダヘイケガニも多分その本能にもとづいて偶然そはに沈んでいたプラモデルの戦艦大和を背負ったのでしようが、正に海底動物の習性の秘話といった感じがします。もしも海底のヘイケガニのそばにプラモデルの軍艦とプラモデルの籠かご(えびら)とを二つならべておいたら今時のヘイケガニはどちらをえらんで背負うでしょうかという漫画ができそうに思われれます。